

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577390029		
法人名	有限会社 長安工業		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村862-2		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町受理日	令和3年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居年数が長い方が増え、重度化が進み身体介護の割合が増えている現状。その中でも、できる方には買い物、洗濯物たたみなども行っていただくようにしている。
 今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、日々の活動だけでなくミーティングや研修も自由に行うことができない状況にあるが、新型コロナウイルス感染症対策については、春先にご家族にホームでできることとできないことなどについて文書を配布し、不安の軽減に努めた。スマートフォン等を利用しての面会もご希望があれば行っている。また、秋口にご家族とは個別に面談を行った。
 最重度の方から軽度の方まで対応すべきことも非常に細分化し増えているが、職員のケアの向上に向けて再度研修等を再開していく予定でいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の中にある「その人らしい毎日を過ごして頂く」ということを、職員全員が意識され、利用者の思いを大切に日々の支援に取り組んでおられます。食事は、その日の調理担当職員が利用者の好みを聞いて献立を立てられ、柔らかくて食べやすい食材やおやつを宅配や専門業者から取り寄せられ、三食とも事業所でつくっておられます。食事の形態も利用者の状態に合わせて工夫されています。利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器拭きなどをされ、同じ食事を会話をしながら楽しんでおられます。季節の行事食やおやつづくりの他、個別の支援として、利用者の希望に合わせて喫茶店や道の駅でソフトクリームを食べておられるなど、食事を楽しむことができるように支援しておられます。新型コロナウイルス感染症対策で外出を控えている中、道の駅やフラワーランド、喫茶店へのドライブ、近隣への散歩、花見(桜)などの他、生家までのドライブや墓参りなど、戸外に出かけられるように支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来変わらぬ理念を掲げているが、今年度は特に感染症対策や重度化対策に追われている。理念の共有のための掲示やミーティングでの振り返りは続けていきたい。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を、事業所内に掲示し、ミーティング時に振り返り確認している。管理者と職員は、理念を共有し、利用者が重度化する中でも、本人の思いを大切に、利用者一人ひとりの状態に応じた支援ができるように実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の盆踊りなどに参加しているが、今年度は新型コロナウイルスの感染症対策のため行えていない。	町主催の令和元年度の文化祭では、初めて事業所の展示コーナーを設け、利用者の書道作品を展示した。近隣の保育園からは、行事の予行練習見学の誘いがあったり、園でとれた野菜のおすそわけをいただくなど、馴染みの関係となっている。年末には、餅つきの手伝いに地域の民生委員が参加したり、地元神社への初詣も行っている。散歩時には、地域の人と挨拶を交わし、地域の人から野菜（インゲン豆やレンコンなど）の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルスの感染症対策のため行えていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果をミーティングで説明し、改善点について協力を求めている。自己評価を全職員にて個別に行い、面談につなげて個々の業務につながるよう取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、評価をするための書類を職員全員に配布し、一人ひとりが記入したものを管理者がまとめている。管理者は、自己評価を基に、職員それぞれの課題や不安について話し合い、日々のケアの振り返りをしている。利用者の高齢化や重度化に伴い、利用者の意向を受け止めているなど、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のサービスやホーム全体の状況変化など報告し、意見をいただいて適宜反映させている。感染症対策のため今年度は文書開催となっている。	会議は、2カ月に1回開催し(文書開催を含む)、事業所の活動や利用者の状況報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の報告、身体拘束廃止委員会の報告等をして、意見交換を行っている。会議では、コロナ禍での補助金、面会制限の対策、面会のルールについて話し合い、参加されなかった方には文書を配布している。感染症対策のため文書開催になった場合は、返信用紙を同封し、返送された意見に目を通して、共有すべきことは次回発表するなどしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡をこまめにとれる関係性をつくりつつ、月に一度の事業所連絡会議に参加して情報を共有している。	町担当者とは、運営推進会議時や月1回の事業所連絡会議参加時の他、電話やメール、直接窓口に出向いて相談し助言をえたり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話等で情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	館内では拘束なく、自由に過ごしていただいている。玄関は日中は無施錠。ミトン使用などやむを得ない場合のみご家族に説明し書面に署名をいただいて行うことがあるが、できるだけ短期間に行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、月1回のミーティング時に「身体拘束適正化のための指針」を基に話し合っている他、研修で身体拘束についての事例検討をしているなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は昼間施錠しておらず、外出したい利用者があれば、職員が声をかける対応などで、閉塞感を持たない配慮をしている。スピーチロックについては、管理者が助言、指導をしている他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連について市販のテキストを購入して配布し研修に使用している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は各制度について研修等で理解している。身近な該当者がおらず、職員への研修は最近取り組めておらず、理解が進んでいないと思われるので課題の一つとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から家族や本人と面談を複数回もち、質問に答えつつ説明をして納得の上で契約いただくようになっている。入居申し込みも書面だけでなく見学をしてから申し込みいただくよう働きかけている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	体制、処理手続きを定め周知している。要望、苦情についてはミーティングにて職員で振り返り再発防止に努めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議参加時、ケアプラン説明時、事業所行事(敬老会、誕生会)への参加時、電話、メールで家族の意見や要望を聞いている。請求書や事業所だより送付時には、通信欄を活用して、利用者の様子を写真を添えて家族に伝えるなどの工夫をしている他、今年度は、公民館で、家族面談の機会を持つなど、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりに努めている。食事の外部委託の提案や利用者の口腔ケアなど、日常のケアに関する意見や要望には、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を出し合い、日々のケアに活かすようにしている。年に一度は個別の面談を設け、他者の目のないところでの意見にも耳を傾けるよう努力している。	月1回のミーティング時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は年1回の個人面談を行っている他、職員が気軽に意見や気づきが言いやすいように努め、日常業務の中でも聞いている。職員の勤務体制への提案や利用者の入浴方法など、個別のケアについての意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は法人の代表でホームの責任者である。管理者が日々のケアの中で職員の努力や実績、勤務状況を把握している。休みが希望通りに取れる働きやすい環境になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため研修をほぼ見合わせている。日頃のケアでの課題は個別相談指導で対応している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ、勤務の一環として参加できる機会を設けている。山口県サービス評価地域推進会議、薬剤管理指導研修、福祉用具を活用した介護技術向上研修などに参加し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。内部研修は、身体拘束防止、虐待、新型コロナ等の感染症対策など、状況に応じて実施している。新人は、先輩職員と1ヶ月程度一緒に業務を行い、働きながら学べるよう支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はサービス事業者連絡協議会の役員を務めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い入居初期は特に声をかけ、話をしっかり傾聴し、ホームにいたることが心地よくなるよう心がけている。 ご家族からの情報収集も行い、ケアにつなげている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に管理者・ケアマネが面接し、しっかりお話を伺うようにしている。入居後しばらくは連絡をまめに行うよう努めているほか、日常的にも電話等の問い合わせが可能であることは常々伝えるように心がけている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の時点で必要とされているのは何よりも安心感であると考え、リロケーションダメージを最小限にとどめ、新しい生活に少しでも慣れて落ち着いて過ごしていただくことを共通の目標として取り組んでいる。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的に重度化しており一緒に行えることが減っているが、できることをみつけて家事参加いただいている。その場合は感謝をつたえ、やりがいにつながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助同行時や面談の時を使って話を深める努力をしているが、管理者やケアマネジャーなど一部職員に偏りがちな課題はある。メールを利用してさらなる充実を図る予定である。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため見合わせている。	家族による美容院の利用などもあったが、3月以降は面会を制限している。家族との交流は、手紙や年賀状の交換、電話での支援の他、公民館を活用しての家族面談を開催して利用者の様子を伝えるなど、工夫している。利用者には、地元の情報がより多い新聞を購読し、毎朝目を通すことを勧めたり、話題を共有するなどしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適宜職員が支援しながら互いのコミュニケーションを見守り、介入が必要な場合はさりげない介入を行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠による退去が多いため引き続きの支援はないが、祭り等で出会ったときは近況を伺ったり、参加されているサークルの発表会に誘っていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や意思表示が難しい方が多いが、笑顔がみられる、かつてそのことに思い入れがあった等のことから判断して意向把握に努めている。	入居時に、家族の思い、本人の性格、過ごし方、様子、疾病などを家族から聞いている。年1回、事業所独自の様式で健康状態や生活状況、社会活動についてアセスメントしている他、日々の関わりの中での利用者の行動、表情、会話を個人記録に記載し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の仕草や表情などから推し測ったり、家族から聞いて職員間で話し合うなど、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から詳しく聞き取りを行い、把握に努め、情報を共有している。入居後もご本人の暮らし方やご様子を含め、把握を継続してよりよい過ごし方を探している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入職後長く勤めている職員が多く、日々の記録に加えて職員の五感や観察から気づく変化もできるだけ共有するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年に一度はケアマネジャーが職員や管理者と相談して計画書を作成している。ご家族からも要望を伺うようにしている。職員にはミーティング時に報告している。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に、ケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。年1回モニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態に変化が生じ場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録にて職員間で情報を得てそれを踏まえて今後の対応を見直したり、計画に反映したりしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が支援困難な場合、衣類や身の回りのものの買い物代行を行い、快適な生活の支援を行っている。また、感染症対策のため理美容の外出困難時、職員が簡単にヘアカットも行った。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	車椅子のままでも利用可能な理美容や飲食店などを把握して外出につなげている。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため外出等は実現できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームが指定して主治医を変更するようなことはせず、できるだけそれまでのかかりつけ医に通える支援を行っている。看取りまで希望される場合は在宅診療を行っている診療所の紹介等を行っている。</p>	<p>利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。医療機関の訪問診療が月1回もしくは2回ある。他科受診は、事業所が支援している。歯科については、利用者の状態により往診で対応している。受診時には、利用者の状態の記録を持参して医師に情報を提供し、受診後は、家族に電話や手紙で結果を報告している。週1回の訪問看護を活用して、利用者の健康管理や健康相談を行っている。夜間や緊急時は、管理者を通して医療機関と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回、契約している訪問看護ステーションから看護師の訪問がある。薬や体調の変化についても報告し、24時間体制で急変、体調不良時にも個別の状態に応じた助言や指導をもらっている。</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供書にて日頃の生活上のご様子をお知らせしている。入院中は必要に応じて病院関係者と情報交換、相談をしている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時から折にふれホームでの看取りの現状を踏まえて終末期の話をするように努めている。重篤な状態になられた方のご家族へは、不安や疑問解決のため訪問看護師による説明の場を設けた。</p>	<p>契約時に「重度化や終末期の対応の指針」に基づき、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師と話し合い、医療機関や他施設への入所、看取りを含めて方針を決めて、全員で共有し、支援に取り組んでいる。利用者の状態を訪問看護師から家族に説明する場も設けている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットを共有し、対策を迅速にとるよう心掛けている。順番に消防署での救急救命講習会への参加は行っているが今年度は感染症対策のため研修開催、参加は見合わせている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、原因や発生時の状況をその日の職員間で話し合い、管理者に報告後、他の職員には記録を回覧している。月1回のミーティング時に再発防止について検討し、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時の対応については、消防署による救急救命の講習会で学んだことをミーティングで学習している。緊急対応のマニュアルをその都度改訂し、事故防止の取り組みや事故発生時に備えている。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	防災の観点から消耗品のストック場所を見直して量を増やした。個人別に緊急時持ち出しリュックを作成した。避難訓練は文書確認で行う予定。	消防署の協力を得て、年2回、機器点検に合わせて火災通報訓練を実施している。避難訓練は、避難マニュアルを活用して、災害時の通院手段や避難経路、避難時間を確認するなど災害時に備えている。衛生材料を確保するための収納場所を増やしたり、利用者一人ひとりの緊急持ち出しリュックを準備している。飲料水や食料品の備蓄や消毒用品、防災用具の確保などを定期的に確認し、更新している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	第三者から見られているという意識は忘れないよう時々ミーティングで指摘をしている。入居年数や勤続年数が長くなり、気のゆるみがみられることがあるので、研修を再度開始している。	職員は、ミーティングで話し合い、内部研修で学び、利用者に人生の先輩として接し、ほりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応については、管理者が指導している。個人情報管理や守秘義務についても職員は理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	明確な意思表示が難しい方が多いが、出来る方には参加の意思などを問うようにしている。食べたいものを伺ってみるなど心がけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	厳密に時間を定めていない部分もあるがすべてに介助が必要な方が増え、職員のペースで起床、就寝していただくことが多くなっている。 希望を伝えられる方には尋ねるようしているが、課題の一つである。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の状況によっては快適さを優先した衣類の選択を行うこともあるが、ご家族購入の衣類をメインに、その人のイメージを保てるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつや飲み物のリクエストを聞く機会を増やしている。皿の片づけなど出来る範囲で共に行うよう努めている。重度化で食べられる物が限られてくるなど、難しいシーンは増えている。	その日の調理担当職員が利用者の好みを聞いて献立を立て、宅配業者から購入したものを使用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の状態に合わせて食事の形態を工夫し、柔らかくて食べやすい食材やおやつを宅配や専門業者から取り寄せている。参加できる利用者は、職員と一緒に野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器拭きなど、できることをしている。季節の行事食（おせち、敬老の日、クリスマス）やおやつづくり（ぜんざい、おはぎ、ホットケーキ）、個別の支援として喫茶店や道の駅でソフトクリームを食べるなど、食事を楽しめるよう工夫し支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、不足しないよう気を付けている。献立はあらかじめ決めていないので、その日の調理担当の職員が栄養バランスに気をつけるようにしている。途中で食事がストップされる場合は声掛けをするなどしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知症の進行や身体状況の悪化などで困難な場合も増えているができるだけ毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科に連絡し、受診につなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立に向けての支援は困難であるが、排泄記録表で排泄パターンを把握し、必要に応じて介助している。	排泄記録表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をとってもらい、毎日ヨーグルトやオリゴ糖をメニューに入れるなどで支援している。それでも困難な方には主治医に相談の上、薬で対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	人手や設備の関係上一人一人の希望に合わせての入浴は困難であるが、少なくとも週3回程度は入浴できるように支援してきた。職員がマスク着用となり体調不良防止のため、回数はやむを得ず一時的に減っている。	入浴は毎日、15時30分から17時30分までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせてゆっくり入浴できるよう支援している。職員の体制によっては、午前中や午後の早い時間に入浴でき、一人週3回は入浴できるよう支援している。利用者の体調により、清拭、シャワー浴、足浴で対応している。入浴したくない利用者には無理強いせず、時間を変更や声かけの工夫をするなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一部の方については主治医に相談し、薬を処方してもらっているが、午睡含め概ね安眠が保たれている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬情報はファイルに綴じて、いつでも確認できるようにしている。薬剤師が講師の研修に参加した職員もいるが、全員が薬名薬効までは把握できていないと思われ、改善の余地が残されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症対策のため全面的に開催が困難になっているが、時々ドライブ、書道、体操などを行っている。	テレビ(吉本新喜劇、動物もの、バラエティー番組、歌番組)や録画の視聴、新聞や雑誌を読む、チラシを見る、ぬり絵、折り紙、習字、壁飾りづくり、カラオケ、歌を歌う、計算ドリル、パズル、黒髭ゲーム、ボール転がし、ラジオ体操、テレビ体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、床拭き、花を摘んで生ける、食事の手伝い(野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳、食器拭き)、行事の締めくくりのスピーチ、餅つき、誕生日会など利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある日々が過ごせるように支援している他、個別の思いや意向を汲み取って喫茶店や道の駅でソフトクリームを食べるなど個別の支援に努めている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策のため原則として他者との接触の可能性のある外出は行っていないが、敷地内や近所の散歩や外気浴はタイミングをみて行っている。	感染症対策で外出は控えている中で、道の駅やフラワーランド、喫茶店へのドライブ、海岸や近隣への散歩、花見(桜)などの他、利用者一人ひとりの希望に沿って生家までのドライブや墓参りなど、戸外へ出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しておられる方は無し。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援したいと思っている。昨年末は年賀状に各々の作品を印刷してご家族へ送った。電話も希望があれば取次の支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実線状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デッキや庭に花が咲き、キッチンからは調理する匂いがし、外が見える様子が見えるような生活感を大事にしている。テーブルに花を飾ることもある。廊下には季節の造花や写真、書道やちぎり絵の作品を飾ったりしている。	玄関に季節の花を飾り、家族の来訪時を考慮し利用者の日頃の様子を写真に貼っている。共用空間は明るく、テレビの周辺には椅子やソファ、季節の花を飾ったテーブルを配置し、利用者がくつろげる居場所になっている。壁面には習字やちぎり絵など利用者の作品や行事の写真、カレンダーが飾ってある。窓からは、外の景色を眺めることができ、ベランダのプランターに植えてある花や山を眺めることができる。厨房からは、食事の支度を音や匂い、お茶を入れる香りが漂い、家庭的な雰囲気となっている。利用者がいつでも、どこでも、ゆったりできるように、ベンチやソファが配置してあり、利用者は好きな場所でゆっくり過ごせるように工夫している。室内は、温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファでテレビをみたりうとうとされたり、一人の時間が必要な方は自室に帰られたりと、自由に動ける方は自由にすごされている。車いすの方は話がある方同士で近い席にするなどの配慮をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台などを持ち込んでいただくことができる。ご家族の写真や思い出の品、人形などの持ち込みは自由として、全く同じ部屋が二つないようになっている。	ダンス、衣装ラック、仏壇、テレビ、ラジオ、ベッドサイドボード、椅子、化粧品、生活用品、家族からの手紙、生け花、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族が話題になった新聞の切り抜き、家族や来訪者との写真、100歳のお祝いの賞状などを飾って、その人らしい居室づくりをして、居心地良く落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳コーナーに腰かけて洗濯物たたみをしていただいている。 トイレの案内掲示等も状態に合わせて適宜行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームさんぽみち

作成日: 令和 3 年 3 月 2 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新型コロナウイルス感染症の発生余波で訓練、研修が行き届かなかった	コロナ禍のできる研修を検討し、実行する	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで公開されている動画を視聴する ・感染症が落ち着き次第研修参加を始める 	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。